

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年11月14日(金)

みんなの居場所

子ども達が生きる未来社会の

超スマート社会「Society 5.0」の知ってしまおう。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもの。

むかしの言葉に換えて、情報が溢れている現在(Society 4.0)の課題にこのInternet of Things:モノのインターネット)やAI(Artificial Intelligence:人工知能)などの最新テクノロジーを活用した便利な社会が「Society 5.0」といわれる。

現在(Society 4.0)は、必要な情報を見つけて分析・共有することが困難な状況です。さらに少子高齢化や地方の過疎化などで人的負担も大きくなっています。その負担を軽減する方法として日本政府は、IoTやAI、クラウド、ドローン、自動走行車・無人ロボットなどの活用を推進。これら最新テクノロジーの活用により、最終的には少子高齢化・地域格差・貧富の差などの課題を解決し、一人一人が快適に暮らせる社会の実現を目指しています。これが真の「Society 5.0」の目的です。

こんな社会を生き抜くためにはどのような力が必要かを考えてみることがありますか？ 私には関係ないなんて言っているのって、ダメな時代なのです。

【雑感】「自分の為にも人の為になった事がある」

自分の為になった事がある

先日、あるお寺に行くとありました。その掲示板に「自分の為にも人の為になった事がある」の一文が貼ってありました。私は書道が嗜み、その掲示物には目がいってしまいました。私の場合、自分がやりたいことや、憧れや理想を文字として表現することが多く、このお寺の掲示物も、自分もついでにという視点から懸念した言葉です。

実は、私の言葉に惹かれたのは、わたしの自分が、それではなかったと由来です。何かあるにつけ、「自分の為」という視点が根本にあり、何となく「腹黒い」といつか「なめたい」といつか、妙な気配りをして、実はそれが自分の為だ、といつか、非常に「悪い」自分を感じていました。最近やっと、その様な状態から抜け出しているのです。学校が「みんなの居場所」となるためには何をすればいいのかわからない、何かできるか？という視点を持つようになりました。そう言えば、私は人に「字を書け」と頼まれることが多く、「そんなの面白い御用」的に聞き流してききました。自分の為とか大変な仕事を引き受けたなどとは思っていませんでした。しかし、これが後々良い影響を私に与えてくれたように思います。あちこちで多くの人の声をかけて頂き、知らない人からも拝見依頼が来るようになったのです。その出会いが新しい出会いを呼び、私に多くの人の繋がりを与えてくれました。「情けは人の為ならず」と、このような経験があったから、「自分の為よりも人の為にやった事が自分の為になった」という言葉が私の心に「スートン」と落ちていたのだと思います。私は経験的に「人の為」にやった事が「自分の為」になることを知りました。読者の皆様は、どのような経験はありませんか？ 自己中心的が現代社会に生きる私たちに最も必要な視点のように思っています。

シリーズ「自分を語る」#5-1

さて、平成8年度、府本小学校での1学期始業式の日に「5年1組 澤田敦先生」のお話。担任発表での「おはよう先生」の話を聞いた。当時の子ども達の反応は「怖ろしい」といつつも、この子達や通っていた年間、私にとっては年のハズになるものなりました。

着任した年、府本小学校は「学力充実」についての研究推進校でした。私はそれまで「教科指導の何たるか」をあまり学んでおらず、勉強のための良いチャンスでしたが、非常に重圧した時間でもありました。専門用語が飛び交う会議、時間外でもお構いなしの会議……。しかし、リーダーを中心に他の先生方が同じ目標に進んでいるという緊張感がありました。私も時間外勤務など抵抗もあきらめ、研究発表会前の一週間は帰宅時間が午前になることもありました。常に研究が付きまとい、府本小学校での生活は、私も年間3回ほどは研究発表をしていました。それが今では、もう良かったという感覚です。私事ですが、無事(？)に結婚し、同僚の結婚や出産が、照れまくりながら、仕事に専念しようと誓ったのでした。夏休みも近くなったある日、例の如く「ナイトハイク」の話を持ち出しました。すると子ども達は食いついてきました。しかし、前任教にも増して保護者からの「なぜ？」が寄せられました。この壁をクリアするためのノウハウは経験済みですが、真摯に丁寧な保護者に対して説明し、校長先生にも了解を頂きました。学級委員さんがイベントに協力的なこともあり、実施に「コーサン」が出ました。実施初年度のことでも、参加者は37人中23名でした。そこだけが残念でした。

これまでの経験から5年生は30km、6年生は42km、1995kmと設定していましたが、平成8年度は30kmです。この年の行事はそうして紹介しますね。コースは、府本駅からJR上熊本駅に移動し、そこからスタートします。熊本市西区を通過し、いわゆる「河内線」を通過して玉名に帰るコースでした。昨年度の経験から全員完走がテーマでしたが、あっさり全員ゴールしました。実際、30km以降は自分の弱い心との戦いが始まるので、30kmまでは結構元気に歩きます。

この行事の成功が次に繋がっていったことはいつまでもありません。平成9年度は持ち上りの6年生担任でもありましたので、行事自体はスムーズに動いていました。しかも、昨年のナイトハイクが「あの行事は良かった」という評判がしつとり広がっていたのです。私が担任させて頂いた学級では、そのことが追い風となっていました。

玉名町小学校での42km、1995kmのコースを紹介。スタート位置は、何と合志市にあります。熊本電鉄の御代志駅です。JR玉名駅から熊電を乗り継ぎ御代志駅まで移動し、夏休み中の午後5時がスタート時刻でした。そこから、菊池市、山鹿市、旧菊池町を経由して、ゴールの玉名町小学校を目指すコースです。平成9年度のナイトハイクで何より嬉しかったのは、少なかった参加者が全員参加になったことでした。子どもも同じく、保護者同士で参加を呼びかけながら、この年は他職員の有志の参加もあり、100名規模に膨れ上がりました。(つづく)